令和 3年度 社会福祉法人大五京 一保育園 自己評価結果公表シート

1. 本園の教育保育目標

保護者の協力を得て、多くの良質な体験を通して自信を持たせ、園児個々の成長目標を達成する

- ・心情(Feeling)の豊かな子ども…「感情表出」「愛情」「他への理解」「申告意欲」「試行意欲」「連帯意欲」「正義感」
- ・態度(Manner)の良い子ども…「挨拶」「謝罪」「感謝」「懇願」「自己責任」「選択責任」「勝者の義務」
- ・自主的に行動(Behavior)できる子ども…「規律遵守」「忍耐」「勇気」「責任館」「委任追従」「自己主張」「自己顕示」
- ・個性(Identity)豊かな子ども…「演出表現」(「演技」「言語」「心情表出」) 「絵画制作」(「興味・関心」「集中・熱中」「創造・想像」)
- ・健康(Health)な子ども…「運動・体力」(「走・跳・投」「泳・潜」「持久意欲」)

2. 今年度、重点的に取り組む目標、計画

目先の事にとらわれる事無く、何事に対しても掘り下げる事で確実なものとなる様進んでいく。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

_	0. 計画項目の建成及の取り配りが、加			
L	評価項目(課題)		取り組み状況	
		他園と環境構成が違う事から、テストランニング通り進めれない状況が ある	今年度もコロナ禍が続く中で、担当者に来園してもらう機会が持ち づらかった。重ねて、半導体不足により、wifiを強化するための機器 の取り寄せが困難になっている事から、設置が未だできていない。 機器の購入が完了次第、早急に設置をし環境を整えたい。	
	2	Zoom・YouTubeの取り扱い方について、ほとんどの職員が分からない状況である。	ZOOMの導入は結果的に至らなかった。YouTubeやコドモン活用し、日々の様子を定期的に動画配信をした。コドモンで動画配信ができる様になったことから、職員のYouTubeの取り扱い方は一部の職員のみにレクチャーをするに留まった。	
		アワードバンケット入賞が目的であ ると、はき違いをしてしまう恐れがあ る。	課題として挙げていた様なことは全くなく、自分たちが行っている保育についてどの様に展開すれば発展できるのか、また、職員がキャリアに関わらず、意見を言う機会を持つことにより、受け身ではなく『どうしたいのか』どうしなければならないのか』を一人一人が意識を持つ事ができるきっかけとなった。コロナ禍にも関わらず、時間を惜しむことなく取り組んでくれていた。	

2021.03 大五京1-K

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

半導体不足による整備不足は続くと思われるため、できる部分についてはどんどん進めて頂ける様、連絡を取り合っていく。コロナ禍の影響で、参観ができなかった分、YouTubeで配信をしたり、普段の保育の様子を週に2回のペースで配信を行って行くことができたというところでは、保育の様子がコンスタントに見れてよかったという保護者様のご意見も頂けた。地域への方針理解の促進では、園の前にある『東栄興業』にイベントの話を持ちかけた事をきっかけに、お互いに置かれている状況や取り組んで行きたい事などディスカッションする事ができた。その中で、車両用のカーブミラーの交換や、新たな設置のお話を頂けた事で設置に至った。また、積雪の際には、ポンプ車でお湯を撒き従業員の方が雪かきまでして下さり、本当に助かった。保護者アンケートではハード面の要望も寄せられる事が増えたと同時に、職員採用もなかなか進んでいない状況が続いている。築43年となり園舎の老朽化が進んでいることから、来年度は改修工事を行う準備をしていきたい。

5. 今後取り組むべき課題(次年度へむけて)

5.	5.今後取り組むべき課題(次年度へむけて)		
	課題	具体的な取り組み方法	
1	・保護者・職員アンケートから、老朽 化に伴う不安意見が寄せられている。・園周辺に次々と園が設立され ると共に、改築整備が完了している。・園児・職員の獲得が困難となってきている。	施設の大規模な修繕を行う事により、ハード面に対する老朽化へ の不安材料を払拭させる	
2	タイムカードの導入が緊急事態宣言 や蔓延防止措置により、見合されて いる。新しい機能も開発されている が、導入には至っていない。	コドモンで活用し切れていない部分について調べ導入をする	
3	保護者アンケートより、ソフト面での 不安な声を一部頂いている。その部 分について具体的対応が必要と考 える。	職員に対して伸ばして欲しい分野を主任・部署主任から提示の後、 自信の目標を併せて具体的に立てる。	
4			

6. 学校関係者の評価

令和3年度は総じてみて、前年度に続き、新型コロナウイルスの感染拡大状況に合わせた運営がより一層、求められた一年であったと言える。法人に所属する各施設は特に緊急事態宣言の発令や蔓延防止等重点措置の適応がいち早く出される地域であったことから、常に先行事例がない中で、ウイルスの変異や社会からの要請、また何より管轄する行政によって指示される内容のみならず、対応の早さの違いといった様々な変動する要因に対応して、法人本部と各施設、あるいは保育士と看護師といった様々な部門、階層での重層的で密接な連携強化が行われ、お子様の健全なる成長に寄与する保育と保護者様への就業支援という法人の存在意義を余すところなく発揮してくれたことが総括として感じられることである。 具体的にはコロナ禍の移動制限にかまけることなく、積極的ににてを利用した多くの研修や様々なミーティングを積み重ねることで人材育成に努められ、更には保育の見える化にもにてを十二分に活用

具体的にはコロナ禍の移動制限にかまけることなく、積極的にICTを利用した多くの研修や様々なミーティンクを積み重ねることで人材育成に努められ、更には保育の見える化にもICTを十二分に活け されることで保護者の皆様のご理解を深める活動にも注力されていたことが印象的であった。このようなICTの活用は、今後においても発展的に活用されていく予定であるとのことなので大変期待でき る。

特筆すべきは、年に一度、開催されているアワードバンケットという取り組みである。アワードバンケットは各施設、あるいは各職員が日ごろ培ってきた新しい保育方法や教材の開発にとどまらず、保護 者様への対応、地域との連携、人材育成方法、経営管理といった複数のカテゴリーにおいて研究発表を各分野における外部の専門家の評価及び指導を受けるイベントであり、それを活用して各施設や 各職員が持つ暗黙知を形式知化して組織全体へ切磋琢磨しながら学び、波及させていく試みは実質的なスキルの向上にとどまらず、全体的なモチベーションと専門職である保育士というプロフェッショ ナリズムの向上と活性化に大きく寄与していたと思われる。特に、令和3年度はICTを使い、全職員がリモートで参加できるようにしたことは前述したこの間に得られた優れたICTの活用であり、新しい試みであったと言える。

三密が忌避される中で保護者様との連絡が通常より難しくなったと言われることが多いが、全ての職員がモバイル端末を以前から常に携帯しており、それを使っての物理的な距離を超えたより一層の 緊密で濃密な連絡や報告、相談が日々、行われていたことに大変感心した。その他、高評価を頂いているビュッフェや基準以上の職員配置など特色ある運営は変わらず行われており、変化は無かった ことにも安心させられた。

ただ、ICT化への先行投資や新型コロナウイルス感染拡大への対応のための出費などの必要なことではあったが、決算予測としてやや厳しい状況にあることが報告されており、そのことが今後の注意 すべき大切な課題であると考える。

次年度以降も、予算の適切な執行に基づいた保育と就業支援の理想的展開を心掛けていかれることを理事会及び評議会としては連携して管理監督していくつもりである。

令和4年3月23日 理事会

2021.03 大五京1-K